

「心(外界)と身体(内界)との関係性」を診る

連載
5

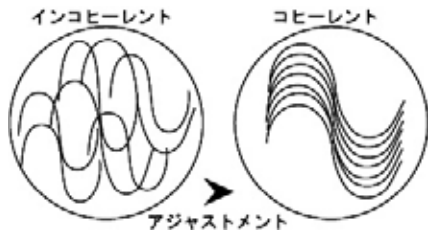
ーアジャストメントと振動ー

心身条件反射療法協会

PCRT(心身条件反射療法)で上位レベルの原因(脳)と外界との関係性)を検査する際、患者にソフト面の情報(知覚)をイメージしてもらい、術者はハード面の身体(運動)が「緊張パターン」を引き起こすかどうかを検査する。もしも、ソフト面の情報(知覚)によって、「緊張パターン」が脳にプログラム化されている場合は、「緊張パターン」を「リラククスパターン」に切り替える治療を施す。この施術を生体エネルギーレベルの量子脳理論的にいえば「インコヒーレント」状態から「コヒーレント」状態に切り替える施術といえるだろう。

コヒーレントとは、波動の波の長さや位相がそろった状態をいい、波動の波がばらばらになった状態をインコヒーレントという。PCRTでは、脳にプログラム化された病的なインコヒーレント状態を引き出し、パターンアジャストメントを加え、コヒーレント状態に切り替える施術を行う。

PCRTのパターンアジャストメントは、生体のエネルギーシステムを共鳴させる「振動」刺激を加えることが目的で手法はともシンプルである。パターンアジャストメントによる生体への物理的な「振動」刺激は、脳・神経系や生体マトリックスのネット



ワークを通じて組織、細胞へと波動が伝わる。そして、細胞内ではイオンの電気的信号に変化を生じさせ、インコヒーレントな波動状態からコヒーレントな波動状態へと変化すると考えられる。代替療法には様々な施術法があるが、生体エネルギーの流れに作用するという点では、おおむね共通しているだろう。

二〇〇四年度のヨーロッパ版・腰痛診療ガイドラインでは、従来の腰痛治療に対する考え方を物理的・構造的・生物学的な損傷モデルから、生物的・心理社会的な要因からくる腰痛症状としてとらえるように勧告を出しているとのこと。これは、従来の機械論的な治療モデルから有機論的、さらにはエネルギー的な治療法モデルへのパラダイムシフトを示唆しているのだろう。

生体を機械仕掛けの単なる構造物として捉えるのは簡単であるが、人間は「外界との関係性」で活かされている生命体であり、その関係性をエネルギー的視点で診ることは、本質的な治療を行う上でとても重要になるだろう。